

感想文



荒地山山頂にて

佐々木康治

間違いだらけではないかと不安な山行報告ですので、参加者からの暖かく寛大な容赦の御心を期待します。

昨年は1回のみ山行参加、忘れられないようにと、今年は発奮して倍増、3倍増を目指し、集合場所 JR京田辺駅に向かう。駅で山スタイルの近江さん、69才とか、入会の年齢制限65才に引っかけ残り残念そう、一般として今回は参加、私は制限ぎりぎり2年前に入会、まだ3回しか参加していない幽霊会員、最多参加実績を誇る佐坂さんから、会費だけの会員も立派な山友会貢献者とお褒めの言葉をいただく。なにかの手違いだろう、参加者名簿に名前のない弓仲さん、西川さんも加わり、総勢13名。まずは、JR 芦屋駅から歩

いて10分程の芦屋川沿いの公園で、講師の山行ベテラン梅澤さんから「山の歩き方」のレッスン、秘法「ナンバ歩き」を教わる。「ナンバ歩き」とは「右手と右足、左手と左足を同時に出す」歩き方で、体のひねりが加わらないことで、長時間歩いても疲労を感じないという。普段何も意識せずに手足を動かしているが、これからは科学的知識を加えて加齢の進む足腰に華麗な動きを加えてみよう。ナンバは元来南蛮人の歩き方を嘲笑したのが由来と、佐坂さんが博学の一端を披露してくれる。

芦屋は高級住宅街、塀が高く内部はのぞけない。どのような人々が住んでいるのであろうか、堅固な要塞のような家もあり、もしかして暴力団の組長の家かもと邪推。田辺高校東側に住む赤松さんの御殿の近隣は芦屋と同じ大邸宅街だという、羨ましい話だ。

六甲は自分の庭のようなものだという金本さんのナビでまずは城山(272m)までの山道を辿ると、六甲は市街地に近く、最近の若者間の山ブームもあり、山ガール、山ボーイの姿が目につく。会誌では技術度は一つ星、それが当日配られたプリントではいつの間にか二つ星に代わっている。体力度は一つ星、山の基本を学ぶ山行と出ているので気楽に参加した弓仲さんから、これは二つ星の間違いだらうとブーイングが出る。

コース中一番の楽しみは岩梯子、巨岩が続く岩登りで、自分の短足に歎息をつきながら、太鼓腹がつかえる狭い岩の間の空間をなんとかぐり抜け、岩の上に上がると神戸の街がすぐそば、遠景は和泉山系だろうか、眺望がいいのが嬉しい。荒地山(549m)でランチタイム、頂上の狭いスペースに30人ほどのハイカーが弁当を広げている。

今は山歩きの好季節、汗もかかず快適な山歩き、ピンクのミツバツツジが満開、スズランのような花をつける馬酔木、そしてタムシバ、ヤマザクラ、可憐な紫色のスマレと、花の姿が見えなかった冬山が終わると山登りの楽しみが増える。はっきりとした四季をもつ日本は、外国では味わえない季節の変化を体全体で感じる事が出来て最高の国。

東お多福山(697m)を過ぎると奥池のバス停まで後わずか、少しだけ雨が降ったが、すぐにやみ、CL 石橋さん、SL 梅澤さんの企画・実施の労苦に報いてくれる。

最後に、昨年11月にトレッキングをした南米パタゴニアのフィッツロイ、パイネ、ウシュアイアがあまりにも素晴らしかったことを記させていただきます。

近江 勲

公開登山に一般参加としてお誘い受け、★一つで700メートル弱だったので軽い気持ちで参加させてもらいました。好天でとても雨が降るとは思えない青空のもと、登山開始前に歩き方の説明や三点確保の仕方などを聞いて準備運動の後に出発。いかにも滑りやすい白っぽい砂粒状の土質で、「一歩一歩足裏全体でしっかり踏みしめないと絶対に滑る」「2~3回はこけるだろう」と予測しつつ山麓を登りはじめて岩梯子に来て三点確保の意味が判り、本気で挑みました。小学生のころふるさとの山で遊んで頑張った年上の仲間について行った事を思い出しました。日頃の鍛練のおかげで、足腰ともまったく異常なく、皆さんに迷惑をかけずに下山、出来たことで「ホッ」しています。お世話になり、有難うございました。